

環境への取組み

JR東日本では、1992年にエコロジー推進委員会を発足してから、省エネルギーや沿線環境保全等の各分野で様々な取組みを進めてきました。また、環境の取組み及びトレースについては、環境目標を定め毎年CSR報告書にまとめてきました。

2009年にJR東日本研究開発センター内に「環境技術研究所」を、2010年に経営企画部内に「環境経営推進室」を設置し、企業としての持続的発展をはかりながら、環境保護における社会的責任を果たし、地球環境問題に積極的かつ長期的に取り組む体制を強化しています。

今後も、グループ経営ビジョン「変革2027」で掲げた「地球温暖化防止」や「エネルギー多様化」を推進し、グループ体となって「低(脱)炭素社会」実現に向けて取り組んでいきます。

2030年度目標

環境保全活動の分類	項目	2030年度達成目標
地球温暖化防止への取組み	鉄道事業のエネルギー使用量	25%削減 (2013年度比)
	鉄道事業のCO ₂ 排出量	40%削減 (2013年度比)

2020年度目標と2018年度実績

環境保全活動の分類	項目	2020年度達成目標	2018年度実績
地球温暖化防止への取組み	鉄道事業のエネルギー使用量	6.2%削減 (2013年度比) 517⇒485(億MJ)	4.3%削減 495(億MJ)
	単位輸送量あたり列車運転用電力量	新幹線:5.1%削減 (2013年度比) 2.49⇒2.36(kWh/車両キロ) 在来線: 8.3%削減 (2013年度比) 1.59⇒1.46(kWh/車両キロ)	新幹線:3.2%削減 2.41(kWh/車両キロ) 在来線: 5.6%削減 1.50(kWh/車両キロ)
	支社等における 単位床面積あたりエネルギー使用量	10.0%削減 (2013年度比) 0.0407⇒0.0366(kL(原油換算)/㎡)	11.8%削減 0.0359(kL(原油換算)/㎡)
	エコステモデル駅の整備	累計 12箇所	累計 10箇所
	ホーム・コンコース照明のLED化 (2014~20年度内)	24.4万台中3.6万台の導入 8,300万MJの削減	累計 5.2万台 (11,000万MJの削減)
	大型空調設備の高効率化 (2014~20年度内)	10箇所 8,200万MJの削減	累計 8箇所 (7,600万MJの削減)
	グループ会社各社の エネルギー使用量原単位の削減率	各社が毎年1%削減	グループ会社全体で 1%削減 (2015年度比)
資源循環への取組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	94%	93%
	総合車両センター等で発生する 廃棄物のリサイクル率	96%	96%
	設備工事で発生する 廃棄物のリサイクル率	96%	94%
	グループ会社における リサイクル実施率	100%	100%
環境マネジメント	グループ会社各社が 独自に具体的数値目標を設定	継続して目標設定	設定済

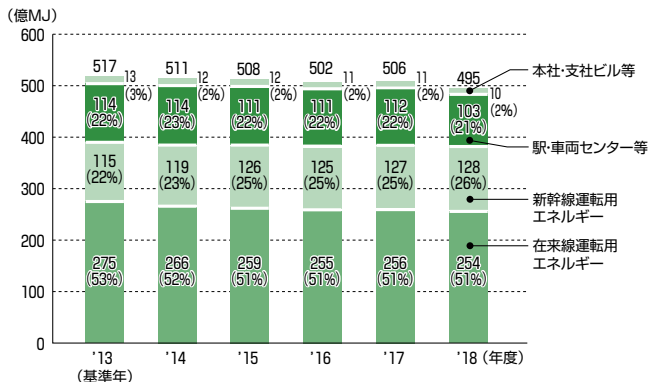
■ はグループ全体の目標

地球温暖化防止への取組み

JR 東日本が使用する電力は、自営の発電所と電力会社から供給され、電車の走行や駅・オフィスの照明・空調に使用しています。また軽油や灯油等をディーゼル車の走行や駅・暖房の空調に使用しています。

消費エネルギーの約8割を占める列車運転用エネルギーの削減を引き続き進めるほか、事業所等においてもエネルギー削減施策に取り組んでいきます。

○ JR 東日本 消費エネルギーの構成

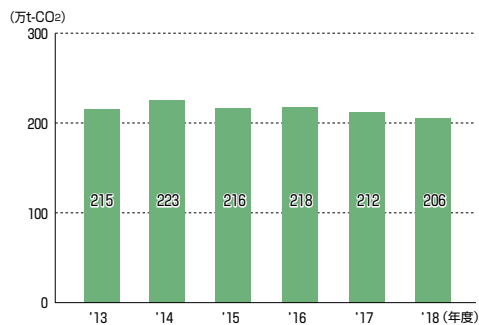


※算出方法の変更について

エネルギー消費量およびCO₂排出量は、エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）および地球温暖化防止策の推進に関する法律（温対法）に定める方法で算出しています。

※上記の消費エネルギーは、省エネ法の考え方にに基づき算定していますが、自営水力発電量に対しては、9.76MJ/kWhを掛けて計算しています。省エネ法上の報告は、自営水力発電量に対して、0MJで報告しています。

○ JR 東日本 CO₂ 総排出量の推移



環境への取組み

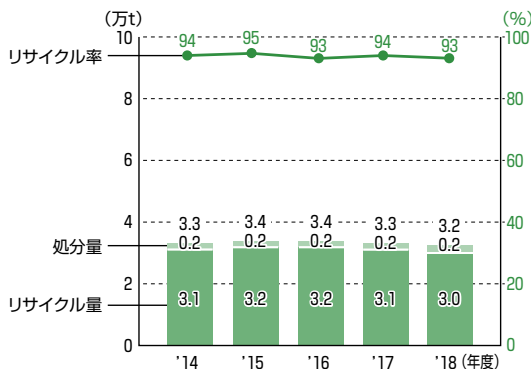
資源循環の取組み

駅や列車から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物等、JR 東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。

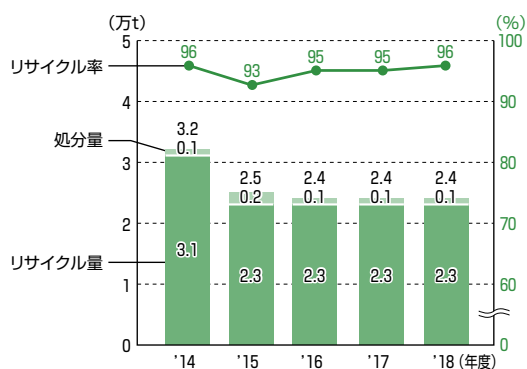
鉄道事業や生活サービス事業等から排出される多様な廃棄

物を削減するために、発生の抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）を進めているほか、特にリサイクルについては廃棄物の種類ごとに達成目標を定めて取組みを進めています。

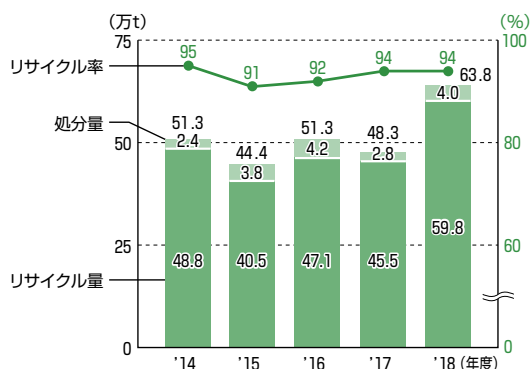
○ 駅・列車からのゴミの推移



○ 総合車両センター等からの廃棄物の推移



○ 設備工事からの廃棄物の推移



まちづくり等への協力

当社は、地域に根ざした企業としての社会的な役割を踏まえ、鉄道と道路との立体交差化、駅周辺の整備、河川改修にともなう当社施設改修など、自治体等が推進するまちづくりや都市計画等への協力を行い、地域社会における豊かな生活の実現をはかっています。

● 主な鉄道立体交差化の状況 (JR発足後)

自治体名	線名	区間	距離 (km)	方式	※完成年月
川崎市	南武線	武蔵小杉～武蔵溝ノ口	4.5	高架化	1990.12
あきる野市	五日市線	武蔵増戸～武蔵五日市	0.8	高架化	1996. 7
長野県	中央線	下諏訪～岡谷	1.9	高架化	1996.10
新潟県	弥彦線	北三条駅付近	2.7	高架化	1997. 9
東京都	東北線	赤羽駅付近	2.4	高架化	1998. 4
仙台市	仙石線	あおば通～苦竹	3.9	地下化	2000. 3
栃木県	両毛線	栃木駅付近	2.4	高架化	2003. 4
埼玉県	武蔵野線	南越谷～吉川	1.4	高架化	2004. 6
東京都・川崎市	南武線	稲田堤～稲城長沼	2.1	高架化	2005.10
仙台市	東北線	長町駅付近	2.5	高架化	2006. 9
東京都	中央線	三鷹～国分寺	6.2	高架化	2009.12
群馬県	両毛線	伊勢崎駅付近	2.5	高架化	2010. 5
東京都	中央線	西国分寺～立川	2.8	高架化	2010.11
宮城県	仙石線	多賀城駅付近	1.8	高架化	2012. 5
さいたま市	東北線	浦和駅付近	1.2	高架化	2013. 3
東京都	南武線	稲城長沼～府中本町	2.2	高架化	2013.12
新潟市	信越線	新潟駅付近	2.5	高架化	2018. 4

※踏切を除去した時期

● 自由通路の設置

駅の両側を結ぶ自由通路は、駅周辺の街の一体化に寄与し、まちづくりを促進する契機となります。

当社は、沿線自治体等から要望をいただいた箇所について、周辺のまちづくり計画等との整合をはかりながら、自由通路の整備に協力しています。



新小岩駅

● 新駅の設置

鉄道駅や鉄道路線の周辺で区画整理事業等のまちづくりが進められる場合、新駅設置やホームの新設などの要望が出されることがあります。

当社は、整備効果や財源確保の見通し等を見極めた上で、これに協力しています。



磐城西線郡山富田駅

● BRT (Bus Rapid Transit) の整備

東日本大震災で被災した沿線部では、早期に安全で利便性の高い輸送サービスを提供するため、BRTによる復旧を行っています。BRTは速達性・定時性が確保できるほか、復興まちづくり事業の進捗に合わせた駅移設・ルート変更などに柔軟に対応できる交通システムです。

現在、完成に向けて、引き続き未整備区間の工事を進めていきます。



BRT

● 駅周辺の整備

国や自治体が計画する駅前広場などの駅周辺整備や、鉄道路線を跨ぐ道路橋の老朽架け替え工事などは、列車の安全・安定性の確保や施工箇所付近を通過されるお客さまの安全確保等の面から、当社が必要な協力を行っています。



東京駅丸の内駅前広場

● 河川改修にともなう橋りょう架け替え

洪水時の流域の安全確保のため、堤防の高さの変更や拡幅などの河川改修事業が河川管理者によって行われます。

当社は、交差する鉄道橋りょうの架け替えなどを行い、これに協力しています。



東北線平泉～前沢間衣川橋りょう

文化・スポーツ活動

■ 公益財団法人 東日本鉄道文化財団 ホームページアドレス <http://www.ejrcf.or.jp>

- ・1992年3月に設立、2010年4月に公益財団法人化。
- ・JR東日本発足以来の事業成果を社会貢献に継続的に役立てる活動を行っています。

○ 鉄道を通じた学術・科学技術の振興

- ・鉄道博物館、旧新橋停車場、旧万世橋停車場の管理運営

○ 鉄道を通じた地域文化の振興

- ・東京ステーションギャラリー、青梅鉄道公園の管理運営
- ・地方文化事業支援



東京ステーションギャラリー
「夢二繚乱」展

○ 鉄道を通じた国際理解・国際交流の推進

- ・海外鉄道研修生の受入れ
- ・海外からの視察対応



JR East フェロウシップ研修

■ 鉄道博物館 ホームページアドレス <http://www.railway-museum.jp>

- ・2007年10月14日に埼玉県さいたま市にオープン、2018年7月5日に南館オープンと本館リニューアル完成
- ・本館は実物車両展示、南館は鉄道の「仕事」「歴史」「未来」をテーマとした展示ゾーンで、鉄道の全体像やその意義・魅力を紹介
- ・国指定重要文化財を含む、約67万点にのぼる貴重な鉄道資産
- ・教育博物館として、県や市の地域や教育現場と連携



本館1階「車両ステーション」



南館1階「仕事ステーション」

■ スポーツ

● JR東日本ジュニア剣道大会

JR東日本エリア内の少年少女剣士を対象として、日ごろの鍛練の成果を発揮していただくとともに、各地の剣士との交流を通じて、少年少女の健全育成を図ることを目的に1990年から「JR東日本ジュニア剣道大会」を開催しています。

● 関東大学サッカーリーグ戦

当社は、日本のサッカー界、アマチュア・スポーツの振興・発展に寄与すべく、関東大学サッカーリーグ戦に1989年の第63回大会から「JR東日本カップ」として協賛しています。



● JR東日本ランニングチームの活動

2003年1月1日に設立され、八王子支社を拠点に活動しています。

全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤー駅伝）には2005年の初出場以来、出場権を14回獲得しています。



● JR東日本女子柔道部の活動

2015年4月1日に設立され、全日本実業団での優勝や、世界のトップ選手が出場する国際大会（グランドスラム）で金メダルを獲得するなど、国内のみならず、世界を舞台に活躍しています。

また、各地で柔道教室を開催し、地域への貢献活動も行っています。



■ プロサッカー（ジェフユナイテッド市原・千葉）

当社は、古河電気工業(株)と共同で「ジェフユナイテッド(株)」（ジェフユナイテッド市原・千葉）に出資しています。試合興行だけでなく、千葉県を中心としたスクールの展開や学校などへのコーチ派遣、地域イベントへの参加など、青少年への普及・育成活動や、地域に溶け込んだ文化・社会貢献活動にも積極的に力を入れています。プロサッカーを頂点として、東日本地域に層の厚いスポーツ文化を根づかせるとともに、社員およびJR東日本グループの一体感の醸成をめざしています。

<http://jefunited.co.jp/>



フクダ電子アリーナ

● スキー大会

JR東日本グループの一体感の醸成、地域との密着をはかるため、1992年からGALA湯沢スキー場で行われている「GALA CUP」に、開催当初から後援・協賛しています。

● JR東日本硬式野球部の活動

会社発足の1987年以来、JR東日本野球部とJR東日本東北野球部の2チームが活動し、都市対抗野球大会では、2011年にJR東日本が優勝、JR東日本東北がベスト4という成績を取っています。また、両チームから多くのプロ野球選手を輩出しています。

毎年、JR東日本グループの社員、家族等が一体となって大応援団を形成し、熱烈な応援を送っています。



JR東日本野球部



JR東日本東北野球部

都市対抗野球大会への通算出場回数・最高成績

	(出場回数)	(最高成績)
JR東日本	21回	優勝(2011年)
JR東日本東北	25回	ベスト4(2011年)

● JR東日本秋田バスケットボール部の活動

会社発足以来、秋田支社を拠点に活動を行い、これまでに全日本実業団選手権優勝2回、全日本実業団競技大会優勝3回、国体優勝（単独チーム）2回、天皇杯9回出場等の戦績を取ってきました。

また、小学生から高校生を対象に各地でクリニックを開催し、地域のバスケットボール競技人口の拡大とレベルアップにも取り組んでいます。



ジェフユナイテッド市原・千葉（プロサッカー）主要経緯

1990. 11	JR東日本と古河電工が提携し、共同でプロサッカーリーグへの参加を表明
1991. 2	日本サッカー協会からプロサッカーリーグへの参加通知決定
1991. 6. 11	(株)東日本ジェイアール古河サッカークラブ(チーム名：東日本JR古河サッカークラブ)設立
1991. 11	チームニックネームが「ジェフユナイテッド」に決定
1993. 5	Jリーグ開幕
1998. 7	Jリーグヤマザキナビスコカップ準優勝
2001. 7	Jリーグディビジョン1ファーストステージ2位
2003. 5	Jリーグディビジョン1ファーストステージ3位
2003. 11	Jリーグディビジョン1セカンドステージ2位
2004. 11	Jリーグディビジョン1セカンドステージ2位
2005. 11	Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝
2006. 11	Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝
2009. 10	「ジェフユナイテッド株式会社」に会社名変更
2009. 10	新練習場「UNITED Park」完成
2009. 11	Jリーグディビジョン2降格
2012. 12	皇后杯全日本女子サッカー選手権大会でレディースが準優勝
2017. 8	プレナスなでしこリーグカップでレディースが優勝